

伊勢の今を伝える

ISEBITO NEWS

新春号

第15号

# いせびとニュース

●発行 伊勢文化舎 伊勢市観光協会  
おかげ参り推進委員会  
●発行部数 10万部  
●企画・編集 伊勢文化舎  
〒516-0016 三重県伊勢市神田久志本町1474-3  
TEL (0596)23-5166 FAX (0596) 23-5241  
E-mail otayori@isebito.com

15



遷宮で結ぶ人の輪心の輪  
第六十二回神宮式年遷宮



## 新宮へお伊勢さんの 初詣

初日に映えるご正宮。  
新しい御敷地に鎮まれた  
お伊勢さんは  
清々しさもひとときわ。  
良き一年、ここに始まる。

新宮(内宮)に牽参する神馬。 撮影/鈴木一弘

新殿・旧殿 並び建つ

旧年十月、式年遷宮を終えたばかりの神宮は、ご正宮も神域もすがすがしさに満ちている。

新旧のご正殿が並びたつ姿が見られるのも、今しばらくのこと。良き一年のはじまりは、ここで祈りをささげたい。

二十一年に一度の大祭、遷御の儀が行われた神宮の参道をたどると、手水舎、第一・第二鳥居、御贄調舎なども真新しく、大祭の夜の厳かな空気が今も流れているようだ。今年も午年。跳躍の年。馬は昔から神様の乗り物として神社に奉納されてきた。絵馬を供える風習もそこに源がある。

神宮には現在、内宮・外宮それぞれに二頭、皇室から神馬が奉納され、大切に飼われている。毎月一のつく日には、菊のご紋の馬衣をつけ、ご正宮に牽参(お参り)する(ただし、雨天や神馬の体調により中止されることもある)。

一方、今年の注目される話題に、別宮のご遷宮がある。十四別宮のうち、第一別宮の荒祭宮(内宮)と多賀宮(外宮)はすでに新宮となっている。残り十二別宮のご遷宮が平成二十六年秋から二十七年春にかけて行われる。それによって第六十二回神宮式年遷宮はすべて終了となる。

今年もお伊勢さんから目が離せそうにない。

〈次号予告 二月下旬発行  
特集「別宮(十二社)のご遷宮」

- 主な内容
- 2・3面 内宮初参りガイド
- 4・5面 外宮初参りガイド
- 6・7面 ご遷宮10大ニュース
- 8面 いせびと歳時記

# 式年遷宮の現場を訪ねる

## お伊勢さんの初詣

二十一年に一度の式年遷宮を終えて初めてのお正月。新しいご正宮はもろんのこと、神域のあちらこちらに遷宮の余韻が感じられる。その一つひとつに目をとめながら、今年ならではの初詣を楽しもう。

### 【内宮参り】

**宇治橋は新しいのに、東西の鳥居は、なぜ？**  
内宮(皇大神宮)の玄関口、宇治橋。五十鈴川に架かるこの橋を渡る時、いよいよ神域に入る。ヒノキ造りのこの和橋は、式年遷宮に先立つこと四年、平成二十一年十一月に架け替えられた。「宇治橋渡始式」には、全国から三世代揃っているめでたい夫婦が大勢参加し、にぎにぎしく奉祝行事が行われた。

ここから表参道よりはずれ、右手につづく静かな脇参道へ入ろう。遷御の前日、すべてを祓い清める「川原大祓」  
脇参道の右手にある瀧祭神(内宮所管社)にお参りして、さらに

先へ進むと、右手へ分かれる小道がある。しめ縄が張ってあり進入禁止になっているのは、この奥に「川原大祓」の行われた祓所があるからだ。御装束神宝を納めた辛櫃、神職全員など、「遷御の儀」に臨む人と物のすべてが祓い清められた場所だ。

再び、今来た橋をもどると、表参道の神楽殿前になる。神楽殿には帰路に立ち寄って、初詣の記念に神楽を奉納するとしよう。

と、右手に遷宮に合わせて新しく建て替えた御贄調舎がある。大祭には大御饌(神様のお食事)がお供えされるが、食物の中でもとりわけ由緒あるアワビを調理する御贄調理の儀が行われるのが、この御贄調舎だ。奥まったところにある石積は、食物の神、豊受大神の座である。

とここで、宇治橋の東と西の橋詰にある大鳥居は、なぜか、古いまま……。

実は、この鳥居は、遷宮後に旧正殿を解体し、その最も太い棟持柱を再利用する慣わしなのだ。西の鳥居は外宮正殿、東は内宮正殿の二本の柱を鉋できれいに削り直して建てられる。

ちなみに、現在建っている二本の鳥居も再利用され、東海道・関宿の東の追分(亀山)と七里の渡し(桑名)へ運ばれ、お伊勢さんを遙拝する鳥居となる。いわば、木のリサイクルのお手本なのだ。

参道を進み、真新しい第一鳥居をくぐって五十鈴川の御手洗場まで来ると、参道の左手に齋館の門



上/新旧のご正宮。(写真提供・中日新聞社)  
右/新しくなった第一鳥居。



大御饌のアワビを調理する御贄調舎。



上/遷宮祭は東帯の礼装で。右/五十鈴川の御手洗場。

さらに先へ進む、丁字路に出たところで、右手へ。風日祈宮橋を渡り、風日祈宮に参拝しよう。稲作に関わり深い風雨をつかさどる神をまつるこのお宮は、これから遷宮を迎える十二別宮の一つだ。現在も、この宮で風雨の害なく豊

作となるよう五月と八月に神事が行われている。

「遷御の儀」では、旧宮からこの石階を経て、新宮に至る道筋に雨儀廊(雨天にそなえた屋根つきの回廊)が設けられ、道には菰の上に白布が敷き延べられた。

ご正宮前で、二拜、二拍手、一拜。心を込めてお祈りしよう。帰り口へは、混雑期のみだが、左右に分かれてルートが設けられ、右手にすすむと、ぐるりと旧宮の御敷地をめぐる。その道すがら、歳月を経た萱屋根に千木や鯉木の飾り金具が今も輝いている旧正宮の様子がうかがえる。ひしひしと式年遷宮が実感される情景だ。



上/瀧祭神は神路川と島路川の合流点にまつられている。  
下/静かな脇参道。



伊勢物  
名物

# 赤福

本店 〒516-0025 伊勢市宇治中之切町26番地  
電話 0596-22-2154(代) ファクシマール 0120-081381  
<http://www.akafuku.co.jp/>

# 元気あふれる御魂を祭る 第一別宮・荒祭宮は 真新しいご社殿に

ご正殿の斜め後ろに位置して、天照大神の荒御魂を祭神とする荒祭宮が祀られている。昨年十月のご正宮の遷宮からほどなく式年遷宮が行われた。真新しい社殿はヒノキの素木造り特有の白さで辺りを明るくしている。

内宮に所属する別宮は十宮あるが、その中で荒祭宮は第一別宮として重きをおかれている。神宮の重要な祭りである神嘗祭、祈年祭、新嘗祭のときもご正宮について、勅使、大宮司、少宮司をはじめとする神職が参向して幣帛を奉る。このところ、荒祭宮は参拝するの長い行列ができるほど人気が高い。とりわけ若い人たちの姿が目立つ。

そのワケは、祭られている荒御魂にありそう……。神様は、その働きにより、和御魂、荒御魂、奇御魂、幸御魂などに

分けて信仰されることがある。幸御魂は幸せにしてくれる御魂、奇御魂は不思議な力を与えてくれる御魂、荒御魂は活発で積極的な御魂、和御魂は柔和で円熟した御魂という具合だが、諸説あるようだ。荒祭宮の人気には、「和御魂を祭る御正殿は国の平安や神恩感謝をするところ。それに対して、荒御魂を祭る荒祭宮には、個人的な祈りができるから」という見方もある。若者にとっては、パワースポットだから、という受け取り方もあるようだ。

## 神楽殿の大広間に満ちる お正月のめでたき、雅やかさ

荒祭宮から再び表参道にもどると、右手に重厚な入母屋造の神楽殿が見える。

神楽は神遊びともいって、大昔から神事にも用いられてきた神様参照。



第一別宮・荒祭宮の参拝に列をなす若者たち。



皇大神宮(内宮)ご正宮。

御稲御倉と外幣殿。

神楽殿と棟つづきのお札授与所では、さまざまなお守りや「午」の干支守も並んでいる。さらに、参道を進むと、改築されたための休憩所で遷宮ビデオの上映もあり、湯茶、トイレの設備もある。待ち合わせやひと休みするのにおすすだ。

隣接する奉納舞台では、ご正宮の遷宮が済んで約二カ月間、連日のようにさまざまな芸能が全国各地から奉納された。



## お伊勢さんの 年越し情報 1

### 宇治橋前で日の出を拝む 12月冬至～1月末頃

毎年、冬至前後の内宮・宇治橋前には夜明け前からカメラを手にした人がぞくぞくと集まってくる。宇治橋の大鳥居の中央から昇る朝日がお目当てだ。冬至を中心に前後一ヶ月間は、ほぼ同じポジションからの日の出が拝める。二十二日の伊勢市観光協会による冬至祭では、冬至ぜんざいや柚子の振る舞いもある。



### お伊勢さんの年越し参り

#### ■大晦日～元旦

○大晦日の夜八時、神苑の広場の「大かがり火」があかあかと燃え上がる。参道のそこかしこにもかがり火が夜通し焚かれ、参拝者は手をかざしたり、お餅を焼いたり、火を守るのには日本青年会の人々。

○「年越し餅」の振る舞いは伊勢市観光協会により、大晦日夜十一時から元旦にかけて、丸餅一万个が内宮・外宮で振る舞われる。

○三重県特産の「伊勢茶」の振る舞いは、三重県茶業



上/内宮神苑の大かがり火。下/高く積み上げられた奉納の酒樽。

奉祝

# 第62回 神宮式年遷宮

東京のお伊勢さま



東京大神宮



# 外宮(豊受大神宮)さんで 式年遷宮を追想する初詣

食物の神、外宮さんの初詣は、忌火屋殿(神様の台所)のある北御門口から始めよう。今なら、新宮と並ぶ旧宮の姿もじっくりと拝見できる。

外宮の初詣は、まず北御門から。北御門口といえば、お木曳、お白石持の行事では、神領民たちが奉曳車を神域に曳き込むエンヤ曳で盛り上がったものだ。

木漏れ日の中につづく北御門からの参道には、いつもの外宮らしい落ち着いた雰囲気がある。神馬のいる御殿を過ぎると、右手に忌火屋殿(神様の台所)がある。板葺の屋根に煙出し。毎朝七時ごろには、そこから炊煙が立ち上り、薪を焚く懐かしい匂いがただよってくる。日別朝夕大御饗祭の準備がされているのだ。



豊受大神宮(外宮)の新宮(左)と旧宮(右)。(写真提供・中日新聞社)



豊受大神宮(外宮)ご正宮に参拝の列がつづく。



「遷御の儀」の前日、三ツ石の前で川原大祓が行われた。

供えられたという。神々に御食事を奉る御饗殿(神様の食堂)はご正殿の斜め後ろ、ご正宮の御敷地の内にあり、萱葺で板校倉造の御殿である。

臨んで建てられたという。この辺りはその流路になっていて、三ツ石はかつての川原にあり、二十一年に一度の遷宮のときにだけ「川原大祓」の祓所となる。では、外宮のご正宮に参ろう。諸産業の守り神でいらっしやる開かれる。

豊受大神には、全国から農業・漁業関係者の参拝も多い。門前では、折々にその物産を並べて茶市や奉納市も開かれる。

北御門参道が表参道と交わる角に外宮の神楽殿がある。耳をすますと、雅な楽の音が聞こえてくる。右手に折れて進むと、御池のほとりにしめ縄に囲まれた三ツ石がある。ここは「遷御の儀」(宮遷り)の前日、御装束神宝やすべての神職たちを祓い清める「川原大祓」が行われたところだ。昔、外宮の正宮は宮川の支流に



上/表参道(第二鳥居)。下/日別朝夕大御饗祭のために参進する神職たち(北御門からの参道)。



神様の台所・忌火屋殿(左)と、神様の食堂・御饗殿(右)。

## 外宮参り

奉祝 第62回神宮式年遷宮

ゆとりとやすらぎの宿  
**神宮会館**  
伊勢神宮崇敬会

内宮に一番近い宿・歩いて5分  
どなたでもご利用いただけます



〒516-0025 伊勢市宇治中之切町152  
TEL 0596-22-0001 FAX 0596-22-1517

<http://www.jingukaikan.jp>



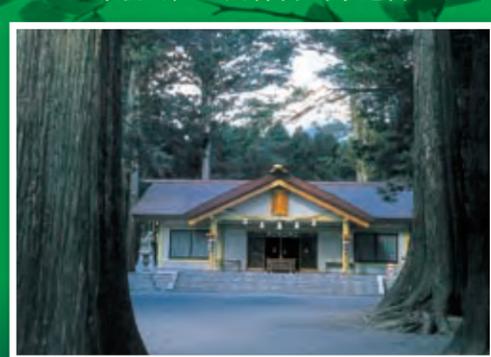
早朝参拝の  
ご案内をしております。

商売繁盛  
職務安全・出世開運  
仕事は独創性とひらめきが大切。疲れた頭と心を癒します。

学力向上  
合格祈願  
(大学・就職・資格・国家)  
現代社会は頭の時代。受験・IT社会の守護神。

心の病気  
頭の病気・ケガ  
頭の神様の大きな御神助を戴いて病気回復。

奉祝 第62回神宮式年遷宮



頭の深(神)呼吸に  
来ませんか

頭之守護神 知恵の大神  
**頭之宮四方神社**  
0598-72-2316  
<http://www.koubenomiya.or.jp/>

●「松阪」よりJR線又は三重交通(南紀特急)「大内山駅」下車徒歩10分  
●紀勢自動車道 紀勢大内山ICより尾鷲方面へ車で5分  
●「松阪」伊勢からレンタカーが便利です。いずれも、およそ50分。

# 九十八段の石段をのぼって 第一別宮・多賀宮へ

御池にかかる亀石をわたって、さらに進み、自然石九十八段の石段をのぼりつめたところに外宮の第一別宮・多賀宮がある。

社殿は真新しい。祭神は豊受大神の荒御魂であり、豊受大神宮の数日後に式年遷宮を終えている。第一別宮は古くからまつられており、荒御魂は積極的、進取的、活動的な御魂とされる。何事か始めるときには、ご加護を祈りたい。

再び石段をくだり、二つの別宮にもお参りしよう。右手は風宮、農作物の生育にかかわる風雨の順調をお祈りするお宮。左手は外宮地域の地主神という土宮。いずれも、式年遷宮はこれからだ。

左手斜面の中腹に、神様の井戸、下御井神社(外宮所管社)もある。

**まがたま池畔でひと休みし、せんぐう館で遷宮を、見聞**

帰路は、まがたま池の畔の休憩所までひと休みしよう。さまざまな冬鳥が遊ぶ憩いの水辺である。その隣にある「せんぐう館」は、今回の式年遷宮記念事業として開館、すでに入場者数九十万人を越



小高い山腹にまつられている外宮の第一別宮・多賀宮。



上/多賀宮への石階。下/まがたま池畔の休憩所。

える人気の資料館だ。宮大工が建てた正殿の実物大模型や美しい御装束神宝の調製工程など、ここならではの展示が評判を呼んでいる。

外宮参道——外宮前から伊勢市駅(JRと近鉄)までの約五百段が

門前町として本来のにぎわいを取り戻した。これも遷宮のおかげであらう。食の神様のお膝元だけあって、食べものの店が多い。ゆとりとアフター「お伊勢参り」をお楽しみあれ。



## お伊勢さんの 年越し情報 2



神宮の神馬

神社の絵馬にその名残が見られるように、古くから馬は神様の乗り物として神社に牽進されてきた。

伊勢神宮にもすでに奈良時代にその記録がある。両宮に二頭ずつ飼ひ、ほかは度会郡佐八村の牧場で飼育されていたという(神宮神事図録より)。

式年遷宮の御装束神宝にも六体の槍彫を土台として、装飾をほどこした彫馬が調製されてきた。

二年前、皇室から二頭の

## 神楽殿で夜通し初神楽

神楽殿では大晦日の午前零時から元旦へ、途切れなく初神楽が奉納される。

とくに、今回は午前零時から一番神楽で、式年遷宮を記念して奉納された新しい演目「斎庭舞」が舞われる。これは、かつて神宮祭主を務めた鷹司和子さんが詠まれた和歌、「みそのふは 秋の夜ふけて みかぐらの 笛の音高く ひびきわたりぬ」に着想し、宮内庁式部職楽部が作ったもの。舞衣もこの曲に合わせて特に詠えられた。神宮の花菱模様をあしらった衣に蜜柑朱色の袴をつけ、天冠には日陰糸を垂らし、手には神をもつて優美に舞う。

神宮雅楽課では森井楽長はじめ、楽師三十一名、舞女三十七名が奉仕している。内宮と外宮の二班に分かれての奉仕であり、新春は出番つきとなりそうだ。



式年遷宮を奉祝して神苑特設舞台で舞われた「斎庭舞」。

初穂料 15000円より (一座15名以内) ※神楽殿で当日申し込む。



午年の干支守り

**祝 御遷宮 謹賀新年**

海女の話聞きながら、海女小屋で新鮮な魚介に舌づつみ

海女小屋はちまんかまど

伊勢志摩産のあわびを使った本物の熨斗袋

伊勢熨斗

先様の健康と長寿を祝う心を形にした伊勢熨斗。結納長熨斗・のし袋・祝儀袋を取りそろえています。

神話の時代から続く伊勢志摩の海女文化を伝えたい

海女文化を提供する **兵吉屋**

〒517-0032 鳥羽市相差町1094番地 TEL 0599-33-6145 FAX 0599-33-7407

**祝 第62回神宮式年遷宮**

参宮客をもてなす **なまご**

名物ステーキ牛丼をどうぞ

外宮さんと内宮さん、二つのお宮が永久に光輝く地で商いをさせていただく縁より「二光堂」と名づけました。

伊勢内宮前 三重県伊勢市内宮おぼらけ町

**なまご**

〒510-0024 TEL 0596-224175 FAX 0596-242510

http://www.nikodo.co.jp/

第六十二回

神宮式年遷宮の

話題を総ざらい！

# 今世紀初、 ご遷宮10大ニュース

## 記念事業

### 1 「せんぐう館」オープン

平成二十四年四月、外宮神苑、まがたま池の畔に「式年遷宮記念せんぐう館」がオープンした。第六十二回神宮式年遷宮記念事業として計画され、二十一年に一度の遷宮に関わるさまざまな技術と精神を次世代に継承することを目的につくられた博物館だ。

約一千三百年つづく「式年遷宮」を伝えるミュージアムは、景観建築において実績のある建築家・栗生明氏によって設計された。メインの博物館と、まがたま池に面した開放的な休憩所が構成され、博物館の大屋根は神宮の社殿に倣った「矩勾配」、休憩所はその他の施設を「緩勾配」にするなど、時空を超えて神代につながるような風格が漂う。

過去の遺産を伝える歴史博物館とは違い、同館の目的は、現在進行形の「式年遷宮」という営みを未来永劫に伝えていくこと。



外宮まがたま池畔に佇むせんぐう館。

そのため、展示手法に大きな特徴がある。目玉展示の「外宮正殿原寸大再現模型」は、四重の垣の内にある普段は目にするこのない神殿の一部を、現役の大工たちが製材から菅屋根の葺き付けまでを実際に行い建てたという本物だ。さらに「御装束神宝」の展示室でも、同じ素材を用いて調製者に制作を依頼した工程品を使って製作過程を紹介し、匠たちの工房での調製風景をモニター映像で流している。

また、遷宮の祭儀を再現する「遷御渡御行列模型（六分の二）」や、今も使われている大工道具の展示も。二十一年に一度の式年遷宮

だが、同館を訪れることでいつもその営みを感じ、全容を知ることができるようになった意義は大きい。

反響は予想をはるかに上回り、開館から二年足らずで入館者数は百万人を突破した(12月中旬)。外宮参拝者数も増えている。

## 造営

### 2 七百年ぶり、宮域林からご用材

今回の遷宮では、造営に使われるご用材の一部が神宮宮域林(神路山)から伐り出された。実に七百年ぶりのことだ。

式年遷宮で建て替えられる舎殿は約六十五棟、御神山から伐り出される檜のご用材は一万三千本以上。かつては伊勢の宮域林からそれらのご用材すべてを出していたが、次第に適切な確保がむずかしくなったため他の地域でも木を伐るようになり、文化六年(二八〇九)の第五十二回遷宮以後、御神山は木曾山(長野県、岐阜県)に定められるようになっていた。



宮域林で作業する神宮宮林部職員。

ふたたび伊勢からご用材をーとの思いで、大正十二年、神宮司庁では森林経営計画(二百年計画)を策定。それから今日まで九十年にわたり間伐、植林を中心とした計



今回初めて神宮宮域林からご用材が伐り出された。

### 3 伝統の「三ツ尾伐り」を伊勢の杣夫に伝承——御杣始祭

ご用材に関連して、今回もう一つうれしいニュースがあった。

平成十七年に木曾谷国有林(長野県上松町)で行われた「御杣始祭」。白衣姿の杣夫たちが斧を使った「三ツ尾伐り」でご神木を伐採したことはまだ記憶に鮮やかだが、地元木曾ではこの大舞台を前に、チェンソーしか知らない現役杣夫に二十年に一度の「三ツ尾伐り」を継承するため、保存会が結成されたという。



御杣始祭では外宮の1本を伊勢の杣夫たちが受け持った。

このように歴史ある林業のまちでさえ技術の伝承が危ぶまれる中、今回の御杣始祭では三本あるご神木のうち一本を、初めて神宮司庁

宮林部の職員七人が任せられることになったのだ。

職員たちは約一年前から山に入って斧の練習に励み、木曾の杣頭の指導を受けて当日を迎えた。

伊勢の杣夫、に古来の技が継承された歴史的瞬間——。人づくりも着々と進んでいる。

奉祝 第62回神宮式年遷宮



伊勢おほらい町  
**豆腐庵山中**  
伊勢市宇治中之切町95番地  
電話0596-23-5558 定休日/木曜

美しい五十鈴川の水を生かした  
豆腐を作りたい

「和妙」にぎたえ  
水の良さを最大限  
ひきだせるよう  
作りあげた豆腐です。

うの花びーなつ  
90円

あんどーなつ 130円

おとうふソフト  
「和妙」を50%以上含んだ、おとうふのソフトクリームです。

うの花びーなつ  
豆乳とおからを  
練り込んだ  
ヘルシードーナツです。

コーン 270円

祝 第62回神宮式年遷宮  
食の神さま外宮さまの見守る前で  
日々精進を重ねて参ります。

伊勢 せきや

◆本社 伊勢市上地町2691-13  
電話0596-23-1281(代)  
☎0120-00-0707

◆本店(外宮前) 伊勢市本町13-7  
電話0596-23-3141(代)

◆参宮薬膳 伊勢市上地町2691-51  
伊勢問屋センター前  
電話0596-20-3958(代)

◆内宮前店 伊勢市宇治中之切町87  
電話0596-28-0081

E-mail info@sekiya.com  
http://www.sekiya.com

一階/店舗 午前九時～午後七時  
二階/茶房「あそらの茶屋」 軽和食・喫茶「御願の朝かゆ」(朝のみ)  
ギャラリー 午前七時半～午後五時 年中無休

# 神宝

## 4 織物の染めが天然染料に戻る

遷宮において社殿の造営とともに重要なことに「御装束神宝」の調製がある。神々に献上する調度品などの御料を、日本全国の名だたる匠たちが長い歳月をかけ、技術の粋を尽くして制作するもので、その総数は七百十四種、千五百七十六点に上る。

時代の「延喜大神宮式」に基づくものだが、今回の遷宮では御料に含まれる多数の織物の染めが、本来の植物染料に戻された。私たちの身の回りには衣類の染色はほとんどが合成染料や顔料によるが、植物染料はそれでは出せない透明感のある風雅な色味が持ち味だ。しかし、同じ工程で染色しても毎回必ず同じ色が出せるとは限らないのが天然染料の泣きどころ。担当の職方たちがその難題に労をいとわず向き合った結果、今回、植物染料で古儀に定められた色相を再現することができたという。



漆塗の辛櫃も晴れやかに、川原大祓(外宮)。



植物染めによる色見本(「せんぐう館」展示)。

## 5 遷宮祭の辛櫃が素木から漆塗に

遷宮の前日に行われる「川原大祓」では、遷宮の御列でご神体をお遷しする容器、御装束神宝などを納めた二十合あまりの辛櫃が参進する。川原大祓の祓所にそれらがずらりと並び様子は庄巻だ。前回は素木の辛櫃が使われていたが、今回、御装束神宝を納めるも

のについて、黒と朱の漆塗の辛櫃になった。これは昭和四年、第五十八回遷宮のときに用いられた辛櫃と同じ様式で、漆塗をほどこし、金銅の鍍金具を付け、鮮やかな緋色に染めた辛櫃緒を付けたもの。厳肅な遷宮祭に雅な華やきを醸し出していた。

# 遷御

## 6 臨時祭主に黒田清子さん

今回の遷宮祭では、池田厚子神宮祭主のもと、天皇陛下のご長女である黒田清子さんが臨時祭主を務められた。



遷宮祭に奉仕された黒田臨時祭主。

「十月二日、外宮(十月五日)ともに黒田臨時祭主がご奉仕。小袿、表著、緋袴にすすみの明衣を重ね、木綿鬘、木綿襷を結んだ晴れやかなお姿で参進された。終始毅然としてたおやかなご様子に、特別奉拝席の中から称賛の声が聞かれた。

神宮祭主とは、天皇陛下に代わって神宮の祭事をつかさどる役職で、平成元年に天皇の姉君である池田厚子さまがご就任。遷宮を控えた平成二十四年春、「万全を期すため」との理由で、黒田清子さんが臨時祭主に就かれた。

## 7 史上初、伊勢と出雲が同時遷宮

平成二十五年は五月に出雲大社(島根県)、十月に伊勢神宮で遷宮が行われ、神話の世界を共有する二社の遷宮が初めて重なる、記念すべき年となった。

二つの御敷地を持ち、二十年ごとに交互に社殿を建てて伊勢に対して、出雲では仮殿を造ってご神体遷し、本殿修造後に遷座祭を行う。古く遷宮は不規則だったが、現在は六十年周期での式年が定まる。神話の国譲りのエピソードで、大國主命が「皇孫の住処の様に深く深い柱で、千木が空高くまで届く立派な宮を」と求めて建てられたという本殿は、高さ二十四



全高24メートルの出雲大社本殿。

# まちの話題

## 8 お木曳、お白石持に新・伊勢市から

遷宮諸祭・行事のうち、地元伊勢の町衆(旧神領民)が中心となって奉仕するのが「お木曳行事」(平成十八・十九年と「お白石持行事」(同二十五年)だ。町ごとにそれぞれ「奉曳団」「奉献団」を結成し、社殿のご用材、新宮の庭のお白石を神域へと曳入れる。内宮へは五十鈴川を川曳で、外宮へは奉曳車

## 9 生まれ変わった外宮参道

式年遷宮に合わせ、二十年に一度リニューアルするといわれる伊勢のまち。前回遷宮では、内宮前に「おかげ横丁」が完成して話題を呼んだが、今回は外宮前が大変身を遂げた。



外宮参道のにぎわい。

伊勢市駅から徒歩すぐとアクセスの良い外宮だが、前回の遷宮以降、駅前の空洞化が進み、外宮門前の山田地区は参拝客が飲食する場所も少ない寂れた状態が続いていた。そこで遷宮年に向けて、伊勢市、伊勢商工会議所と地元が一

致協力し、一帯の町おこしに着手。伊勢市駅前には鳥居が建ち、外宮には「赤福」「せきや」など伊勢の老舗が次々と進出して、参拝後歩いて楽しめる魅力ある外宮参道に生まれ変わった。「せんぐう館」効果もあって、平成二十五年の外宮参拝者数は、五百万人突破も目前という。

## 10 観光交通網が「便利に」「魅力的に」

神宮への参拝客の増加を見込んで、各社による観光交通網の整備も一気に進んだ。



近鉄の伊勢志摩観光列車「ついで」。

鉄道では近鉄が、大阪―賢島、名古屋―賢島間を一日各一本限定で走る豪華観光特急「しまかせ」、伊勢―賢島間を結ぶ展望列車「ついで」の二車両の運行をスタート。三重交通は、昔の路面電車(神都線)をモチーフにしたレトロな「神都バス」を運行するなど、近距離の旅をより快適に、魅力的に

演出する。高速道路も、関一Cから「伊勢神宮」まで〇kmの標識を建てる一方、平成二十五年、紀勢自動車道が紀伊長島までのびて、年度内には伊勢―尾鷲間で全線開通する予定だ。また伊勢―鳥羽を結ぶ第二伊勢道路が開通し、伊勢から志摩へのアクセスが改善。参拝客の日帰り観光エリアを拡充した。



市内77団がお白石を奉献した。

おかげ座 神話の館

遠い昔、そのまた昔から語り継がれてきた、日本の神話。「おかげ座 神話の館」は、天照大御神が祀られる伊勢の里の、これまでになかった本格的な神話体験館です。

伊勢内宮前 おかげ横丁

TEL 0596(23)8838

〒516-8568 三重県伊勢市宇治中之切町52

http://www.okageyokocho.co.jp/

http://www.iwatoya.co.jp

祝 第62回神宮式年遷宮

お多福とともに 岩戸屋は今も昔も内宮前

金時生姜を使った 岩戸屋の生姜糖

鮮やかな赤色をした金時生姜は、香りと辛味が大変強い分、美肌効果や花粉症を抑える効果があるといわれています。

伊勢・内宮前おはらい町 岩戸屋

TEL 0596-23-3188 FAX 28-1322

PEARL BOUTIQUE 珠庵

TEL 0596-23-6750

伊勢の上座 & キャラクターショップ 百華

TEL 0596-23-3236

いせびと歳時記

冬の伊勢志摩のまつり・イベント情報

12月

22日 冬至祭

宇治橋前で冬至ぜんざい・柚子のふるまいが行われる。冬至の前夜一カ月は、宇治橋の大鳥居中央から昇る朝日が拝める。朝日の出遅延後7時30分頃、

25日 神宮奉納餅つき

大晦日に外宮・内宮で配る餅をつく行事。式典の後餅のふるまひがある。

29日 おかげ横丁 歳の市

しめ縄作りや餅つきなど、昔ながらの風習に触れる。お正月迎えの市。

31日 おかげ横丁行く年来的年

笑う門には福来るをテーマに大晦日から元旦にかけて、おかげ横丁を盛り上げる恒例のカウントダウン。花火と太鼓の演出があり、伊勢の地酒がふるまわれる。

31日 名りのしめ切り・火祭り

「名のり」は、各家を回り船頭役と子ども達が掛け合って、繁栄と新年の吉事を願う。「しめ切り」は5メートルある大注連縄を切って山の神を迎える。その後大里浜で、豊漁を祈る火祭りが始まる。



ゲーター祭り

31日 ゲーター祭り

祭りのシンボル「アワ」(直径2メートルほどの白い輪)を竹で空高く突き上げ、豊漁を祈願する天下の奇祭。

31日 船越アタラシキ・トツリアイ

新年の祝詞(アタラシキ)を斉唱した後、豊漁を祈る火祭り(トツリアイ)が行われる。若い男子が派手な花婿袴を着て、頬かぶりをして、燃え盛る火に丸太を突き刺し、火の粉を空に舞い上げる。

1日 歳旦祭

元旦の未明に、新しい年の始まりを祝う神事。参道には大晦日の夜からかがり火が焚かれる。

2日 三番叟

安乗神社にご神体として納められている三体の人形(三番叟、翁、千歳)を遣い、太平洋に面する砂浜で舞を奉納して、大漁、海上安全、五穀豊穡を祈願する。

2日 ひつぽる神事

豊作と大漁を祈る神事。獅子舞、豊年竿の舞の後に火祭りが行われる。ドンド火を燃やす側とたき消す側に別れて攻防を繰り返す様子は、迫力たっぷり。



三番叟

4日 おかげ横丁 新春郷土芸能

お正月にふさわしい緑起のよい、郷土色豊かな伝統芸能が、伊勢に集う(土・日・祝日のみ開催)。また11日の鏡開きには、横丁に飾られていた鏡餅のぜんざいが約300食ふるまわれる。

5日 竈方祭

南伊勢町には平家の末裔と言われる竈の字のつく集落が7つあり、重要事項を記した文書を各集落が順番に一年ずつ保管している。一年に一度竈方の代表が集まって古文書が納められた文箱と目録を照らし合わせる儀式で、この儀式の前に射場式も行われる。

11日 一月十一日御饗(東遊)

内宮の四丈殿ですべての神々に神饗を奉る神様の新年会。五丈殿で舞楽が奉奏される。

11日 盤の魚と弓引神事

手を触れずに金箸と包丁でボラを捌き、豊漁と航海の安全を祈願する。その後、弓引神事で1年の吉凶を占う。

14日 湯立神事

神前に据えられた大釜で煮立った湯に熊笹の幣を入れ、参拝者が熱湯の湯をかけて1年の無病息災と家内安全を願う。

18日 西田宣生作陶つわ展

今、注目されている若手陶芸作家のつわ展。期間中休み無し。

20日 初えびす

町民が鼻かけ恵比寿を囲んで太平洋に向かい、大笑いするゆかいな神事。誰でも参加できる。

2日 水取神事

春へと向かうこの時期に本殿近くに湧く御神水「頭之水」をいただくことで、天地の生命力を取り入れ、一年の息災を願い厄除や心願成就を祈る。

11日 頭之宮四方神社

お正月にふさわしい緑起のよい、郷土色豊かな伝統芸能が、伊勢に集う(土・日・祝日のみ開催)。



水取神事

3日 節分祭

特設撒豆台で赤鬼・青鬼を追い出した後、宮司はじめ厄男厄女らが袴姿で舞台上がり、福豆・紅白餅など縁起の品を撒く。

4日 おひなさまめぐり二見

夫婦岩表参道を中心に約6000体の雛人形が並び、二見浦一帯が華やか。恒例のスタンパラリーも開催される。

8日 高向の御頭神事

800年の伝統を持つ国指定重要無形民俗文化財。雌雄二体の御頭(獅子頭)が地区内を舞いめぐる。クライマックスは夜の部の打ち祭り。太鼓を先頭に松明御頭の順に2組の勇壮な行進が見られる。



高向の御頭神事

8日 山崎まどかステンドグラス展

神戸在住の作家によるステンドグラス展。アクセサリーなど身近な作品も多数並ぶ。

15日 答志八幡祭(神祭)

漁業の守護神を祀り、大漁祈願を行う祭り。お餅を奪い合う勇壮なシーンは見物。



答志八幡祭(神祭)

17日 御船祭

海上守護の霊峰として全国の漁業者から信仰される青峯山正福寺の海祭り。境内は大漁旗で彩られ、多くの露天商が並び参拝者で賑わう。

17日 折年祭

一年の五穀豊穡を祈る祭り。神饗を奉る大御饗の儀と、奉幣の儀が行われる。

23日 勝田流通能

戦国末期から伝わる能楽勝田流の通能が奉納される。伊勢市無形民俗文化財。

24日 汗かき地蔵祭

吉事には白い汗、凶事には黒い汗をかき、汗かき地蔵の祭り。露店も並ぶ。

写真展「日本人のこころ」

「日本人のこころ」は、遷宮を紹介する唯一のニュース紙として創刊し、4年目を迎えました。ご遷宮も終わり、この度、媒体の使命を果たしたものととして、一旦、次号をもって区切り(最終号)とさせていただきます。ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

第六十二回神宮式年遷宮 記念出版

# お伊勢さんと遷宮

～第62回神宮式年遷宮を追う～

二十年に一度の記念に残る一冊

内容

- 第1章 お伊勢さんのがたり
- 第2章 遷宮がわかる「せんぐう館」探訪
- 第3章 遷宮への道<諸祭編>
- 第4章 遷宮への道<匠編>
- 第5章 神に仕える人々
- 第6章 お伊勢さんの歩き方
- 第7章 もっと知りたい式年遷宮

巻末情報 お伊勢さん手帖

A5変型判/144頁 定価1300円+税

編集・発行 (有)伊勢文化舎

〒516-0016 三重県伊勢市神田久志本町1474-3 伊勢倉山山ふんか館  
TEL:0596-23-5166 FAX:0596-23-5241 <http://www.isebito.com/>  
●お求めは● ホームページ、または直接当社まで。アマゾンでも注文できます。

購読のご案内

本紙を購読ご希望の方は、ご住所・お名前・電話番号・号数・部数を明記の上、下記の料金案内をご確認いただき、伊勢文化舎までお送りください。(2・12号のみ在庫あります)

- 1～5部 送料100円(切手可)
- 6～10部 送料200円(切手可)
- 11部以上 送料は着払い。

別途梱包料500円が必要です。(注)101部以上は料金異なりますので、お問い合わせください。

〈お問い合わせ・送付先〉  
〒516-0016 伊勢市神田久志本町1474-3 伊勢文化舎内「いせびとニュース」係  
TEL0596・23・5166

---

伊勢からの便り

新しい年の始まりです。皆様には晴れやかな気持ちで新年をお迎えのことと思います。ところで小紙「いせびとニュース」は、遷宮を紹介する唯一のニュース紙として創刊し、4年目を迎えました。ご遷宮も終わり、この度、媒体の使命を果たしたものととして、一旦、次号をもって区切り(最終号)とさせていただきます。ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

伊勢文化舎代表 中村 賢一

---

第62回神宮式年遷宮記念出版

## 次世代に「神領民」の心と技を伝える

- 陸奥・川曳、全77団の奉曳記録を完全収録。
- 「遷御」を含む8年間の遷宮ダイジェストを掲載。
- お白石持の歴史、奉献の知識などを詳しく解説。

B5判 208頁 定価 1400円+税

編集・発行 (有)伊勢文化舎

<http://www.isebito.com> 及びアマゾンでも注文できます。

